

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業  
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

|                        |   |
|------------------------|---|
| 代 表 校 名<br>( 連 携 校 名 ) | 長崎大学<br>(熊本大学、鹿児島大学) 計3大学   |
| 事 業 名                  | 次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト～地域と暮らしを支える医療人の育成～   |
| 事 業 責 任 者              | 教授 永田康浩   |
| 事 業 の 概 要              | <p>長崎大学・熊本大学・鹿児島大学が強味を持ち寄り、地域で求められる医療人育成に向けた多彩なオンデマンド教材とVRコンテンツを開発し、ICT基盤(Learning Management System)を拡充させて正規カリキュラムに活用することで学びの能率向上を図り、大学を超えて積極的に学ぶことのできる環境を作り上げる。そして、大学間交流等によって学生と教員の知見を広め、多様な地域に適応できる主体性と柔軟性を養う教育を開発する。VR教育の導入でリアリティを高めた教育を提供し、アクティブラーニングにつなげるとともに、教員に対してVR教育のインストラクター研修を実施し、次世代型教育手法の実践モデルを提示する。3大学に実務基盤として連携教育センターを設置した上で、連携基盤として中心的教員による連携教育合同委員会を組織し、地域で求められる医療人の育成と持続可能な大学間連携教育システムの創設を目指す。</p>   |
| 選定委員会からの主なコメント         | ○：優れた点等、●：改善を要する点等  |
|                        | <p>○3大学の強み・特色に加えて、なぜ連携して実施されるべきかといった観点についてよく練られており、独創性が高い。また、アウトカムや評価指標が、医師の地域偏在に着目されており、合理的である。</p> <p>○各大学が実施する低学年から高学年にわたる多様な教育プログラムに加えて、3大学の相互乗り入れによる「地域医療交流実習プログラム」が新しく計画されており、教育資源の共有による教育効果の向上が期待できる。</p> <p>○それぞれの大学でのこれまでの独自の取り組みがあり、その上での計画であり、実現可能性に優れている。それぞれの県の担当からも連携の内諾を得ており、同じ九州という土壌のもと、行政も連携してのバックアップが期待できる。</p> <p>○事業の取組継続に関して具体的な構想が示されており、モデルの他大学への展開が期待できる。</p> <p>○教材作成、学生の交流実習プログラム、合同シンポジウム、外部評価、授業の改編などPDCAサイクルでより良い事業にしていく計画は実現性があり評価できる。</p> <p>●難治性疾患の初期診断・緩和ケアなどの地域構造の変化についての教育は地域包括ケアの教育に包括されているのだろうが、3大学すべてで十分教育が行われるか不明瞭である。</p> <p>●「地域医療交流実習プログラム」に参加する学生数(養成目標人数)が限定的であるため、この人数を段階的に増やしていくことが期待される。</p> <p>●VRコンテンツに関しては今後の見通しの記載が具体的ではないので実効性にやや疑問が抱かれる。</p> <p>●学長又は学部長等をトップとした責任のある体制については明確でなく、予定の委員会などに学長又は学部長などの責任者の参画を期待したい。</p> <p>●地域卒学生の卒業後の定着率向上は期待できるが、義務年限終了後にも地域医療に定着させるためのプログラムの進化を期待したい。</p> |